リーディングDXスクール事業 【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園（島根県）【指定校】

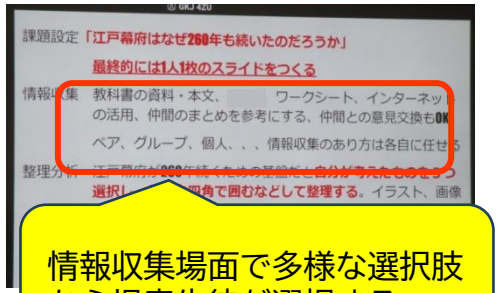
【取組内容】 児童生徒による自己決定型授業の実践

自己決定型授業のポイントを教職員が自覚した上で実践を重ねる。「課題設定」「学習過程」「学習形態」のどこで、どれだけ児童生徒に自己決定させるのかを教師自身が見通しをもって取り組んだ。ICTを活用することで、多様な選択肢を提供でき、他者参照や共同編集といった新たな学び合いが可能となった。

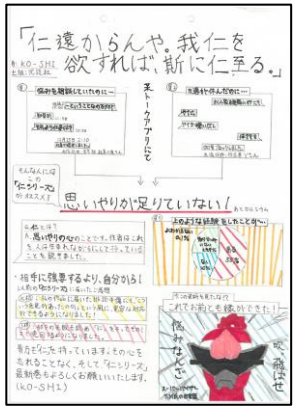
課題設定

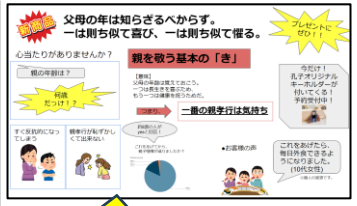
複数のテーマから児童生徒が１つテーマを選び、具体的な課題を個々に設定する。スプレッドシートで他の児童生徒の課題や進捗状況を参考にし、必要に応じて他の児童生徒に助言を求める。

学習過程



情報収集場面で多様な選択肢から児童生徒が選択する。





まとめる場面では、成果物をアナログ（紙）かデジタルか児童生徒が選択する。

学習形態

個人で進める

ペアで進める

他の児童の説明を見て、「おはなしタイム」に児童が自分の意思とタイミングで対話する。